

安藤利博

議会報告

第6号
令和4年10月

発行人: 安藤利博

〒709-0721 赤磐市桜が丘東 4-4-695

TEL・FAX 086-995-3714

携帯番号 090-7137-6605

E-mail qqjiteki5963@gmail.com



(議会中継)



(LINE)

一般質問より (発言趣旨を補足して記載しています)

桜が丘中央の再開発について



営業しているのは
2軒のみのショッピングセンター

9年半の交渉経過の説明を

今まで通り「地権者との信頼関係の構築に努める」との答弁のみで具体的な説明は一切なし。協議記録の資料請求の結果、最近5年間でダイワハウス以外の地権者との協議は1回のみと判明。これでは到底“努めている”とはいえない。

残り任期2年半、解決する決意は

「50年間の感情のもつれの歴史がある。丁寧に寄り添って解決に向かっていく」と他人事のような言い訳に終始。市民から託された課題を任期中に解決する意欲は全く感じられない。

これでは自身の選挙公約「ネオポリス中心地に、子育て・居住環境・公共交通等の機能を集積し、まちの新たな魅力をつくります」(よく分かりませんが)も残念ですが、実現できないでしょう。

交渉を進める上で、町内会の協力を求める考えはないか

桜が丘住民7千世帯、1万8千人は道の駅や新拠点より、桜が丘中央の再開発が一番の関心事。

「一番の関係者である連合町内会等に協力を求めるつもりはないか」との問いに「タイミングによっては考えるが」との答弁止まり。段階を踏んで進展を図る具体的な方策は考えていない。私は桜が丘全世帯から、例えば双方に解決を促す要請署名を集めれば、解決への有力な後押しになると思うのですが・・・。

地権者との交渉と並行して、再開発の中身について検討を始めるべき

地権者との合意が成ってから再開発の中味について検討するのではさらに時間がかかる。開発案について今から検討することに何ら支障はないはず。でも、執行部からは何の回答もありませんでした。

桜が丘在住の他の議員と共に

早期解決を強く求めます

これまでも何人かの議員がこの問題を取り上げています。他の議員にも、市長に責任を果たしてもらうよう、繰り返し取り上げてもらい、早期解決を強く求めています。



広大な桜が丘中央の
遊休地

桜が丘中央に総合文化センターを



(岡山交響楽団演奏会の模様)

「百聞は一見にしかず」のはずだが

7月31日に山陽ふれあい公園で行われた、赤磐音楽友の会主催の岡山交響楽団演奏会は、コロナ禍、酷暑の中と悪条件にも拘わらず、満員の聴衆で大好評でした。

オーケストラの演奏スペースは、幅17mのアーナの横幅一杯、奥行きも指揮者から金管楽器まで10m。横幅10m、奥行き5mの公民館や桜が丘交流センターではオーケストラが演奏できないのが一目瞭然。この事実を市長に理解してもらうのが演奏会の目的でもありました。

音楽堂に関する無知を自ら告白

しかし、この演奏会の模様を見ても市長は「中央公民館や交流センターの利用率が低迷している。この状況の中でホールの新設は市民理解が得られない」との答弁。利用率の前に赤磐市にはそもそも演奏出来る会場がないこと、大勢の市民が音楽を求めていることを全く意に介さない。未だに公民館と音楽堂の違いさえ分かっていないことを自ら告白したようなもの。

これでは苦勞して演奏会を開いた甲斐がない。

法律、赤磐市のビジョン、自らの発言に反することに気付かない

劇場・音楽堂等の活性化に関する法律では「音楽堂は地域の文化拠点、公共財というべき存在」とされ、赤磐市の文化振興ビジョンでは「音楽のコンサートや演劇等を行うホールや美術館機能を備えた施設の整備充実に努める」とある。また、市長は5年半前の福田廉之介リ

サイタルの会場で、「福田廉之介ホール建設が私の夢だ」と言い、昨年6月議会では、私の一般質問に対して「中央公民館の改修で音楽ホールが要らないという意味ではない」と答弁された。

ホール建設は市民の理解が得られない、との答弁は、これら法律、ビジョン、自らの発言に反していることに気付かないのが不思議。市民の理解が得られないのではなく、自分が文化に関心が無いだけのことではないか。

挙げ句の果てに岡山市に聴きに行け

更に教育次長は「令和5年の岡山芸術創造劇場の開館を契機に、文化ホールを含めた公共施設の相互利用について研究している」と答弁。これは赤磐市には音楽ホールは作らないから、音楽を聴きたい人は岡山市の岡山芸術創造劇場に聴きに行け、と言っているのと同じ事。

いつから赤磐市は岡山市赤磐区になったのか。

赤磐市文化振興ビジョンは

総合文化センター整備をめざす

私が求めている総合文化センターは、音楽専用のホールではなく、演劇や映画、成人式や様々なイベントができ、美術館等も備えた多目的ホールです。これは赤磐市文化振興ビジョンが「整備充実に努める」と書いている内容と同じです。

市民の高い文化度に合わせた、総合文化センターを是非とも赤磐市に作り、“文化度ワーストの市”との汚名をそそぎましょう。

不作為により貴重な財源を失う

合併特例債(事業費×95%×70%が国から財政措置がある)が使える期限は、市長の任期と同じ令和7年3月まで、ということは以前から分かっていたこと。これを念頭に地権者との協議、再開発の具体案を検討しておれば赤磐市の財政負担は軽くて済んだはず。赤磐市の財政が厳しいと言いながら、市長の不作為によりみすみす有利な、貴重な財源を失うことになる。これに対する答弁、弁明は一切ありませんでした。

合併特例債の限度額残高はまだ60億円ある。

財政改革への取り組み

市長の企業版ふるさと納税増加策

令和3年度の赤磐市の企業版ふるさと納税額は3社、95万円と1百万円にも満たない。県下15市の中で低い方から2番目。元々予算（目標額）が120万円と低いにも拘わらず、目標額に届かなくても何の釈明もない。

赤磐市と縁が無い企業から企業版ふるさと納税がされるはずはないので、候補先と考えられる本社が市外にある赤磐市への進出企業の資料請求をしたら、資料はないという。市長の取り組みを聞いたら、「市の財政について寄附金に過度の期待をするのは行政の本来筋ではない」と居直る。これでは寄附金は集まらない。

民間企業では有り得ない基礎データ不足と、目標管理なしの成り行き任せ。ここにも赤磐市の行政のゆるい体質が現れています。

歳出削減策は

新たな事業、新規投資をするには今までの歳出を見直し、無くても良いもの、効果の低いものを削減しなければ不可能です。

例えば、平均年齢が80歳を超えている時代に、75歳以上人数×2千円の敬老会助成金を毎年支出（今年度予算は1,700万円。今後、団塊の世代が75歳以上になり更に増加する）。

市民バスは平均輸送人員が2人未満の便が23便も。デマンド型バスに至っては1人当たり事業費が1万円（岡山まで行ける！）。田んぼの蛙に何か伝えるのか、行政事務連絡業務委託料に1,300万円の農山村地域割がある。これらの見直しだけでも5~6千万円は削減できる。



既得権として抵抗、反対する向きがあっても、必要性を説き、理解を得て実行するのが指導者の役割。来年度の予算案に注目します

決算特別委員会より

時効による不納欠損

税、料の徴収部署職員は苦勞されているが、債権管理は、初期対応と時効管理が基本。時効による債権消滅は金融機関ではあり得ない。

行政事務連絡業務委託料の内訳は

委託料の内訳、地区別金額を質問しても直ぐには答弁できない。何も考えず前例踏襲で支出するだけで行政目的、効果は考えていない。

福祉タクシー券の対象者数は

610人、利用者数は551人

これも質問しても実数を把握しておらず、後日の報告。対象者も把握せず、行政目的、効果は意識の外。未利用者約60人の利用しない理由などおそらく考えてもいない。

鳥獣被害防止対策費が減少

イノシシの捕獲数、補助金が減少。実態感覚と違うので質問したら、県の補助基準が変わったとか？

鷹匠によるカラス追い払いに要した費用を聞いたら70万円程度。

これは費用対効果有りか。



企業立地奨励金の支給先で、市外に本社がある企業数は

企業誘致関連事業の奨励金支給企業は8社。その内、本社が市外の企業は5社との答弁。これら企業が企業版ふるさと納税の候補先と思われるのだが・・・。

道路維持修繕の地区別実施箇所

赤磐市の地区別のデータは全て旧4町の区割（山陽、赤坂、熊山、吉井）のまま。

山陽団地、桜が丘の方から道路補修の相談を受けるが、全体とのバランスが分からなければ答えようがない。少なくとも山陽団地、桜が丘は別区分にしないと区分する意味が無い。

赤磐市はデータ思考力がすこぶる低い。

福田廉之介さんリサイクル開催

9月4日（日）に中央公民館で、福田廉之介さんが赤磐市で2回目になるリサイクルを開かれました。スイス留学を終えて帰国された、福田さんの格段に成長された素晴らしい演奏に、会場一杯の皆さんが大きな感動の拍手を送りました。

演奏後に、福田さんと友實市長のトークが有りました。市長からは皆さんが聞きたかった福田さんのこれからの演奏活動や、音楽の話は全く無し。音楽とは無関係の私的な雑談に終始。素晴らしい演奏の余韻に浸っている聴衆は興ざめでした。

5年半前に市長が公言した、廉之介ホールについては一言も無し。あれは選挙目当ての出まかせだったのか、文化とは無縁の市長だったのか、とがっかりしました。

5年半前（平成29年1月9日）の福田廉之介リサイクルでの市長発言

「私は夢を持っています。赤磐市に芸術文化を伝える拠点、場が必要。福田君を迎えるに相応しい、名付けて福田廉之介ホールを赤磐市に誕生させたい。これが私の夢です。私だけの努力では実現しない。夢を一緒に追いかけてませんか。私もカー杯実現にかけていこうと思っています」



市議会だより第70号（令和4年6月議会）の補足

私の一般質問の欄（P.8）、ハンプに関する質問の答で、「住宅街での設置は不向きと言われている」と記述していますが、誤解を与える表現なので補足します。

車両のスピード抑制には、ハンプが一番有効です。しかも、国交省のホームページにも、住宅街の多くの場所で設置されている事例が紹介されています。

執行部はこの事実さえ知らずに、ハンプ設置に取り組まない理由に「住宅街で不向き」と言っていることを訴えたかったのが真意です。このまま読めば、住宅街には向かない、と受け取られかねない、全く逆の表現をしてしまいました。不向きと言われる根拠はありません。

桜が丘の東西連合町内会からも、引き続きハンプ設置を強く要望していただきたいです。



桜が丘東第1近隣公園、飛び出し防護柵改善

桜が丘東4丁目の通称「ぞうさん公園」他に、市道への飛び出し防止柵が設置されていました。しかし、その為に自転車は通りづらく、シニアカーは通れない状態でした。

そこで、町内会から行政に改善を要望してもらいました。行政も素早く対応してくれて、自転車通学の中学生も通りやすくなりました（防護柵3本のうちの1本を外しました）

